５　授業の分析

・初めの「作戦」と「つい言ってしまった」は、わかりやすい対立になっていない。「言おうと思って言った」と「言わないでおこうと思っていたのに、つい言ってしまった」とすべきだった。子どもたちから出てきた「作戦」ということばをそのまま簡単に使ってしまったことがよくなかった。（実は、この対立にしようと思っていたのに、「作戦」を「言おうと思って言った」と置き換える過程を安易に省いてしまった。）

・Ｃ１３の子の意見は、1 回目・2 回目・3 回目と続いたから、がまくんは、そのことを「ずっと」と言ったんじゃないかというものだったのに、1 回目も 2 回目も、実は「ずっと」見ていたんじゃないのかという意見だと思い、授業を進めてしまった。

・「3 回目だけ、ずっと長い間見ていた」に辿り着いたのに、だから、あんなに機嫌の悪かったがまくんの方から、窓の外を見ている理由をたずねたんだと、問題の答えに返らないまま、次の問題に行ってしまっている。なんのための問題だったか、整理できていない。

・「だって、今、ぼく、お手紙をまっているんだもの。」での問題作りは、「なぜ、がまくんが、お手紙を待っているのか？」ではなく、「なぜ、かえるくんは、こんなふうにこたえたのか？」（目的）にすべきだった。そうすれば、がまくんがこちらを向いてくれたことを喜んで、かえるくんは、ここで、「お手紙をいっしょに待とう。」とがまくんを誘い出そうとしたんだと、授業を進めていけると思う。（この次の時間の授業では、もう一度、問題作りをし直した。）Ｔ４４の問い直しは、意味がない。

・まだまだ、子どもたちを引っ張ってしまっている。